

第4分科会—問題提起

☆分科会趣旨/問題提起

2 交替、長時間勤務、就業前のサービス残業などなど過酷な勤務の中「休憩時間が取れない、取れても15分・・・」「病床稼働率を上げるために、日々の入院が9人、10人・・・救急病院ではなくても土日入院」など。良い看護をすることよりも、『何とかこの勤務で事故が起きないように』とマニュアル的、機械的に業務をこなさざるをえない、家では係の仕事に追われてサービス残業に疲弊する日々。良い看護・良いケアがしたい、患者さんの笑顔を見たいと目指していた看護や思いがあるのに、こんなはずじゃなかった・・・と理想と現実のギャップに悩んでいませんか。

社会保障の改革検討項目には「看護を含む医療関係職種の質評価・質向上や役割分担の見直しを検討」が打ち出され、現場では看護が行ってきた仕事を多職種が担う場面も増えてきています。看護師特定能力認証制度では、専門化を要請して看護の質をあげようと考えられています。

そんな現状ではありますが、現場目線で日々頑張っている皆さんがいるから看護は成り立っています。日々のケアがたくさんのお患者さんや家族を支え、回復へとつながる力になっています。少ない人員、多忙な業務のなかにあっても専門職として「看護の専門性」とはについてともに考えていきたいと思っています。

ILOの看護職員条約には「専門職労働の条件」として ①高度の知識と技術 ②知識と技術を常に最高水準に維持 ③職業の独自性 ④国民全体に責任を負う仕事の4点をあげ、看護職は「専門職」と指摘しています。

厳しい環境の中、様々な困難な中での取り組みを報告しあう中で、情報の共有化を図りお互いにこれが自分たちが目指す看護なんだと思える場として、分科会を運営していきたいと考えています。

☆募集するレポート レポートの形式にはこだわりません

参加者の方から「あまりにもつらい毎日の業務の中で、何となく暗い思いをしていましたが、発表を聞かせてもらい看護する素晴らしさを今一度学び、もう一度頑張ってみようかなと思いました」との感想がありました。分科会として結論づけようとは致しません。参加の皆さんの発言の中から共に考えられたらと思います。忙しい中、日々患者さんとの関わりを大切に、ケア出来ている現状が沢山あると思います。形式には拘りません。以下のような内容で積極的にレポート提出をお願いしたいと思います。

1. 日常生活の援助・技術に関するもの
2. 健康管理・教育に関するもの
3. 看護業務に関するもの
4. 日常の実践で悩んでいること・失敗事例
5. その他

* レポートには、病床数、看護職員数、勤務体制、看護方式も記入してください

* レポートを提出された方は、分科会当日は発表をお願いいたします。